疾患モデル通信　2008・12　NO. 27

○ 会長の挨拶

－疾患モデルと人類の夢－

高血圧、脳卒中は最も多くの人々が患う病であり、さらに肥満を伴いメタボリックシンドロームに発症するユニークな遺伝性疾患モデルを均質な系統として維持、管理し、供給を可能とした疾患モデル共同研究会の功績は大きい。創設（1994 年）以来、会長として多大の御貢献下さった東北大学名誉教授京極方久先生から、このたび会長のお役をお引き受けすることになった。

今はなき、恩師岡本耕造教授と青木久三先生が選択交配で高血圧自然発症のラット（SHR）の系統分離に成功された 1963 年、私は京大医学部病理学教室の大学院生として研究を始めた。当時は結核に代って脳卒中は日本人の最大の死因で、祖父母を脳卒中で亡くした私は SHR から脳卒中を発症するモデルの開発に心血をそそいだ。

重症高血圧ラットの選択交配では継代は困難でことごとく失敗、ついには、あらかじめ SHR の子孫を増やし、親が死亡した際少しでも脳卒中病変を確認しえたラットの子孫のみ残して継代し、ついに 100%脳卒中を発症する脳卒中易発症 SHR（SHRSP）を確立した。今や SHRSP と SHR は広く世界で活用され、最新の様々な降圧剤の開発から高血圧遺伝子の分析まで大きく貢献しつつある。それだけに研究に用いるモデルの遺伝子レベルでの均質性が問題となり疾患モデル共同研究会が必要となった。この SHRSP で証明された食塩過剰摂取の害や大豆、魚、野菜など栄養成分の脳卒中予防効果は、その後 20 余年をかけた世界 61 地域の研究でヒトでも応用可能であることがわかった。

脳卒中とそれが原因となる認知症や寝たきりは予防出来る。人は血管と共に老いると言われるように高齢社会で益々増加する循環器疾患など生活習慣病の予防が重要である。遺伝的に早期に発症を予知し予防する研究への道を開いた疾患モデルは人類の健康長寿の夢を贈ってくれたと言える。このように遺伝子レベルで検証された系統が益々秀れた研究に活用されることこそ、多数のラットのいのちを犠牲にして得られたかけがえのない福音を世界の人々に生かすことが共同研究会の使命である。

○目次

会 長 の 挨 拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1
総　会　報　告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2
お　知　ら　せ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3